



岩高同窓会報

発行所
岩ヶ崎高等学校同窓会
宮城県栗原市栗駒
中野愛宕下1の3
TEL (0228) 45-2266
FAX (0228) 45-2267
印刷 タカハシ印刷

題字 葛岡 重利 (S41 卒)
写真 佐々木勝行 (S38 卒)



岩高の教育



同窓会会長

蘇武 徳行
(昭47年卒)

岩ヶ崎高校同窓会員の皆様におきましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

去る二月二十七日には同窓会入会式にて新たに二十一名の同窓会新入会員を迎えました。さらに、四月七日には二十名の新生を迎え入学式がありました。思えば、あの学び舎での真摯に学び向き合った日々は、私達の人生の礎として、今なお深く思っています。

教育とは単に知識を得ることでは無く、人としていかに生きるかを問いつける営みであります。目に見える成果や効率为重んじられる現代においてこそ、人の内面を育てる教育の本質が、改めて問われています。岩ヶ崎高校が長きにわたり普遍で大切にしてきたものは知識の集積にとどまらず、「人をつくる教育」であったと私は確信しています。それは困難に直面したときに逃げずに向き合う力であり、他者と共に生きるための温かなまなざしであり、教室での学びはもとより、部活動や学校生活の一つひとつが人間形成の尊い機会であったと思います。同窓

会は、そうした教育の結実として生まれた「人と人との絆」を繋ぐ場であります。世代を超えて語り合う中で、私達は母校の精神を再認識し、それぞれの歩みの中に生かしていくことができる、その積み重ねこそが、母校の伝統を未来へと継承する力となります。変化の激しい時代にあっても、教育の根幹は決して変わるものではないと信じています。人としてのあり方を問いつける姿勢こそが、社会を支える礎であります。

本会報が同窓生一人ひとりとつとめて、学びの原点を見つめ直す契機となり、また新たなつながりを生み出す場となることを願っています。

結びに、同窓生各位のご活躍と、ますますのご健勝並びに母校岩ヶ崎高校のさらなる発展を心より祈念申し上げます。



岩高同窓会報に 寄せて



栗原市長

佐藤 智

宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、貴同窓会におかれましては、会報第47号のご発行、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

岩ヶ崎高等学校は、「尚志育英」の建学の精神のもと、志高く優れた生徒を育成し、数多くの人材を輩出してこられた、長い歴史と伝統を誇る本市有数の進学校であります。各分野で活躍されている同窓生の存在は、地域にとって大きな誇りであるとともに、若い世代にとっては大きな指針でもあります。

また、本年2月に開催された、令和9年度からの第3次栗原市総合計画の策定に向けた「栗原市総合計画シンポジウム」では、市内の高校生によるまちづくりの提案発表が行わ

れ、岩ヶ崎高校の生徒の皆さんにもご参加いただきました。若者ならではの視点で地域課題を捉えた提案や、柔軟で大胆な発想が示され、一人一人の言葉の中には、共にまちづくりに取り組もうとする「共助」の精神と、「自分たちがこのまちを変える」という栗原への熱い思いが込められており、深い感動を覚えました。

栗原市におきましても本年、子育て支援や移住・定住促進などの施策が評価され、宝島社出版の「田舎暮らしの本2026年版住みたい田舎ベストランキング」において、シニア部門第1位を獲得いたしました。これも皆様と共に進めてきたまちづくりの成果であります。心より感謝申し上げます。本市はこれからも「市民が創るくらしたい栗原」の実現に向け、様々なつながりを大切にしながら、さらに前進してまいりますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、岩ヶ崎高等学校同窓会が、世代や地域を超えた交流の場として今後ますますご発展されますこと、ならびに同窓生の皆様の一層のご活躍を心より祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

会報に寄せて



学校長

原畑 聖子

同窓会の皆様には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。また、平日頃より母校の教育活動に御理解と温かい御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

本校は、おかげさまで創立八十五年目を迎えております。四月七日の入学式には、一年生二〇名を迎え、全校五十二名で今年度の教育活動がスタートしました。生徒数の減少は、本校にとって大きな課題であります。岩高だからできるひとり一人を大切にした丁寧な教育を実践し、その教育を岩高の魅力として発信することで、生徒募集につなげていきたいと考えております。

地域と連携した探究活動を中心とする教育活動は、生徒の主体性や自己表現力の育成につながっており、その成果が、卒業生の進路実績にも表れています。令和七年度卒業生二十一名の進路を見ますと、国公立大

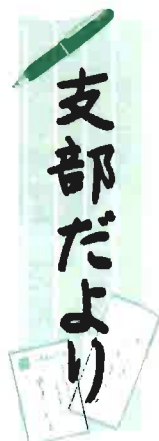
学に四名、私立大学に延べ二十三名の合格、県職員、栗原市職員への合格など、それぞれの進路に応じた指導が実を結び、全生徒に占める割合から見ると、県内有数の進路実績を収めています。

部活動も、少人数ながら熱心に活動しております。団体競技は他校との合同チームとして試合に出場しています。科学部は防災キャンプや他校との合同研究の実践、軽音楽部はくりこま夜市や地域のイベントで演奏など、幅広く活動しています。

「軽音に入りたい」と岩高に入学してくる生徒も増えてきました。

先日は、生徒の探究学習の一環として、仙台岩高同窓会長で、現在宮城県復興危機管理部危機管理監をなさっている豊嶋潤様に、「巨大地震・津波の被害想定と必要な備え・行動」と題して御講演いただき、東日本大震災の記憶がない生徒たちへ、防災の大切さを伝えていただきました。今後も、同窓会の皆様をはじめとした地域の方々のお力をいただきながら、地域に根ざした魅力ある学校づくりを進めて参りますので、引き続き御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

ネパールの今



東京支部長

長沼 和秋

(昭53年
岩高卒)

第69回東京岩高会総会は、令和7年11月23日(日)蘇武徳行同窓会会長、原畑聖子校長先生、豊嶋潤仙台支部長など38名のご出席を頂き開催致しました。今回も後藤仁先輩(S・45)から、とても多くのスイーツポテトを頂き、全出席者にお配りさせて頂きました。

ネパールとの繋がりは1984年にJICA海外協力隊で派遣された時からで、近年、同国の留学生やネパールレストランを見かけるようになりました。2008年王政から連邦民主共和制になり、3つの巨大政党が国を治め、持ち回りで首相が交替結果的には産業らしい産業は発展せず、若年層の失業率は20%超。国民の5人に一人が海外に仕事を求め、

日本にも27万人が移住・就労し栗原市には95人(留学生/8割)のネパールの若者がおります。「インド・ネパールレストラン」、コックや店員は殆どがネパール人、昨年外国人レストランの経営管理ビザ手数料が500万円から3000万円に引き上げられ、3年後には多くが廃業に追い込まれるのではとの報道も出ています。

ネパールでは昨年の9月、SNS使用の禁止命令が出され、汚職と腐敗に不満を持ったZ世代が国内全土でデモを起こし、その結果首相や大臣が総辞職するまでに追い込まれ、3月の総選挙では世界最年少のバレンドラ・シヤハ氏(35歳)が新首相に



選ばれたことで人々は大きな期待を持っています。今年は第70回の総会を迎えます(11/23)。これまで支えて頂いた先輩方へは感謝でいっぱい。特別プログラムは岩永寿子さん(S・38)・古館芳子さん(S・51)ご姉妹と津軽三味線の大御所澤田勝仁さんによる民謡と三味線の演奏。多くの方々のご出席をお待ちしております。

母校の未来に、今私たちができること



仙台支部長

豊嶋 潤

(昭60年
岩高卒)

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、去る令和8年2月6日、仙台市内にて仙台支部懇親会を開催いたしました。当日は、同窓会本部より蘇武会長・菅原両副会長、さらには母校の原畑校長、長沼東京支部長にもご臨席を賜りました。少人数ではありましたが、久方ぶりに顔を合わせる仲間たちと、岩高時代の思い



出や近況を語り合う時間は、何物にも代えがたい活力となりました。来年も2月上旬に開催しますので、今から予定を空けておいてください。

一方で、原畑校長より伺った母校の現状には、身の引き締まる思いがいたします。少子化の波は避けがたく、入学希望者の減少が続いているという現実、私たち卒業生にとっても看過できない課題です。学び舎から活気が失われることは、地域の灯が消えることにも等しく、強い危機感を抱かざるを得ません。

今、私たち同窓生にできることは何でしょうか。それは、かつて栗駒



元岩高教諭

遊佐 忠幸

(平元〜平6)

教員の原点となる岩ヶ崎

思い出の先生方

の地で育まれた絆をより強固にし、現役生や地域社会に対して「岩高卒業生のネットワーク」という形の新しい財産を示し続けることだと考えます。母校が困難に直面している今こそ、全国で活躍している同窓生が手を取り合い、一丸となって支援の輪を広げていく時ですよね。

母校の伝統を次代へと繋ぐため、私も微力ながら尽力してまいる所存です。今後とも、皆様の変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

追伸、4月下旬に全校生徒の前で、震災当時の経験や復興の歩み、県の防災に関する対策などのお話をさせていただきました。母校の教壇に立つ機会を与えていただき感謝申し上げます。

今から37年前の平成元年に、白石高校七ヶ宿分校から赴任した。私としては、2校目の学校であり、生物の小山淳先生の後任として6年間勤務した。その当時の岩ヶ崎高校は、各学年が4クラスで女子が多かったことから、4組が女子クラスであったと記憶している。自転車通学の生徒が多かったが、その頃はディーゼル自動車づくり電が石越から鶯沢まで運行しており、沿線の生徒が通学に利用していた。生徒の多くは、栗駒中学校の卒業生であったが、鶯沢中、金成中、若柳中、築館中などの卒業生も在籍していた。栗駒地区の中心校であった岩ヶ崎高校には、近隣の地域から生徒が通学し、和やかな雰囲気漂う学校であった。勉強と部活動に積極的に取り組む生徒が多く、家庭や体育館には生徒の声が溢れ、活気に満ちていたことを思い出す。また、生徒の卒業後の進路は多様であり、国公立大学から就職まで多岐にわたっていた。

先生方は、生徒個々の進路希望を叶えるため、大学進学希望者には、放課後の講習や合宿所で行われた勉強会、就職希望者には、志望理由書の添削から面接指導など、熱心に取

り組んでおられた。特に進路指導では、佐々木伸悦進路部長に進学と就職指導に係るノウハウを、教務部の業務は、高橋直美教務部長にカリキュラム編成から高校入試に至るまで教務全般に関してご指導いただいた。昼間定時制から異動してきた私にとって、岩ヶ崎高校での様々な取り組みは衝撃的であり、この高校での6年間の勤務経験が、今も仙台育英学園での教員生活に活かされている。

鶯工での思い出



元鶯工高実習教諭

蘇武 次男

(昭49〜平29)

開校六年目の昭和四十九年春、初任で赴任した。生徒との関わりは初めてのことばかりで悩むこともあったが、先輩の先生方に指導を受けながら前向きに仕事を続けることが出来た。

やんちゃな生徒や意気盛んな生徒たちのパワーに自分も力をもらい、一緒に楽しい学校生活を送ることが出来たと思う。

最初の顧問はバスケットボール愛好会だった。生徒と共に練習方法を試行錯誤しながら活動した。栗原・登米地区の新人戦で見事優勝し、県大会初出場を果たした。結果ベストエイトになり互いに喜びあった。その後正式にバスケットボール部に昇格し、県大会出場常連校になった。私自身もインターハイ・国体の役員を務め大きな経験になった。

「高校生ものづくりコンテスト」宮城県大会の旋盤作業部門出場のため、工具の改良を幾度も行い自信がつくまで毎日練習し、教え子が優勝を飾った。我が校の生徒が頂点に立つのは初めてで、規模の小さい高校でも技術を磨いて力を発揮出来ることを証明出来、指導者として嬉しかった。

初任時から勤めてきた高校が閉校・閉科となる事を聞いた時、今までの学校生活の思い出が蘇り、寂しさを感じた。

最後に、宮城県岩ヶ崎高等学校並びに同窓会の発展をお祈り致します。



近況報告



サンプラス54と ゆかいな仲間たち



平田 朋子
(昭49年
岩高卒)

今からかれこれ五十年以上前のこと。二年四組から三年四組へ、クラスは持ち上がりでした。担任も自動的に持ち上がりで、私たちは阿部佳一先生に二年間お世話になりました。五十四人の女の集団。俗に言うジョクラです。机は教室の後ろの席までギッシリで、それはとてもにぎやか(うるさい)でした。

球技大会・文化祭・体育祭・みんな本領発揮です。

クラスには自由ノートが置かれていて、みんなが思っていること、おかしいと感じたことなど、思いおもいに綴られました。

先生方にはうるさいクラスと思わ

れていたようですが、教室にはいつも誰かしら花を生けてくれて、やすらぎを与えてくれるクラスでもありました。

先生はカメラが好きで、行事がある度に写真を撮って下さり、いい思い出になりました。

学校を卒業してからも、たびたびクラス会を開き、還暦や古希のお祝いも、みなさん集まってくれました。今思えば、本当に楽しい岩高での学園生活でした。

これからも、益々の岩高のご発展を心よりお祈りいたします。



サンプラス54クラス会

平成27年9月27日 於 秋保温泉 伝家1年の宿 佐 勘

近況報告



菅原 敏元
(昭52年
岩高卒)

人生で一番美しい生き方は「与えられた環境の中で最大限の力を発揮して生きること！」そして、「俺(父)が若いうちはお前(自分)は何をやってもいい。但し、お前も文字で生まれて文字で育ったからにはいつの日か文字の為になる事をやれ！」と幼少から父に植えつけられて居りました。同時に、「日本の首都は東京だ。大学は何処でもいいから一度は東京に行け！」との許しを得たことから、東京の大学へ進学し、その後は銀行員や会社役員を経たのち地元に戻り、二十五年間を過疎地の文字郵便局長として過ごしてまいりました。

現在は、前記のような人生観を基として生きてきた自分にとって定年退職後に出来る地域貢献は何であるのか自問自答をするうち「奥羽観蹟聞老志」という書物に出会います。その中(第三巻)に、「蕎麦」という項目があり『上品な蕎麦産地として

二迫文字村・東山鬼首・篠谷湯ノ原の三か所』が明記されており、荒廃農地も増え限界集落化が進む昨今、私の最後のミッションとしても一度この地を蕎麦の名産地化できれば次世代に何かしら繋ぐことも不可能ではないのではと思慮し、約百七十年前に菅原家初代「永左エ門」が築く旧母屋を改装し『そば処もんじ永左エ門』を開業し蕎麦屋のおっちゃんになりました。

三月(啓蟄)〜十二月(冬至)迄の週四日(土・日・月・火)、十一時〜十四時の昼のみ営業の気儘な店ですが、お陰様で昨年も年間約四千人前後のお客様が各地から「過疎地文字」へお越し頂いております。また、

本年3月には田園観光課さんと「栗原そば街道マップ」を完成させ

たり、細やかな日々を過ごさせて頂いている今日この頃です。

合掌



近況報告



菅原 優

(昭58年
岩高卒)

岩ヶ崎高校を卒業して43年が経過しました。卒業後は宮城県警察官を拝命し、令和7年3月に仙台南警察署長で退職しました。現在は第二の職場である三井住友信託銀行仙台支店で慣れない銀行員生活を送っています。

警察官時代は県内のみならず全国で発生する事件、事故、災害に対応し安全で安心な社会の実現に少しでも貢献することができたと思っています。忘れられない事案は、東日本大震災と岩手・宮城内陸地震です。東日本大震災は石巻警察署で経験し、被災しながら捜索救助活動を行いました。また、その後の復興にも2年間携わりました。岩手・宮城内陸地震では警察本部から、栗原消防本部に派遣され、宮城県、消防、自衛隊の方々と協力してヘリコプターによる捜索救助活動に携わりました。特にこの岩手・宮城内陸地震では故郷

の栗駒山が被災地だったことから、故郷を救いたいという郷土愛が高まり、志願して実家に宿泊しながら救助活動に携わりました。

今後も、警察官時代の経験を活かし社会や故郷に貢献したいと思っています。

高校時代の思い出は、3年間で古い校舎、プレハブ校舎、今の校舎での学校生活を経験し、クラスは男女併学だったものの男女問わず仲が良かったということです。そのようなことから、現在でもライングループで連絡を取り合い、年に2、3回、



仙台で同級会を開催しています。還

暦を過ぎましたが思い出話では皆が18歳当時に戻るようです。最近の話題では岩高入学者の減少や岩高の存続について心配しています。

結びとなりますが、岩ヶ崎高校同窓会の益々のご発展、同窓生の皆様、在校生、教職員の皆様のご健勝とご多幸そしてご活躍をご祈念申し上げます。近況報告とさせていただきます。

近況報告



菅原 彩加

(平23年
岩高卒)

この度ご縁があり、高校生活について振り返る機会をいただき、大変嬉しく思います。

高校を卒業して早15年が経ちましたが、高校時代の3年間は今でもとても貴重な時間だったと感じています。特に部活動での経験は、今の私の成長の一部となっていて、とても印象に残っています。

私は当時バレーボール部に所属していて、部活動を通して仲間と協力

しながら目標を達成することの喜びや、自分で考えて自主的に動くことの大切さなど、中学時代よりもさらに深い学びを得ることができました。その中でも、当時指導していただいた先生方から、人としての在り方や物事の考え方を教えていただいたことは今でも心に残っています。

当時教えていただいた考え方として、今でも大切にしている言葉が二つあります。

一つは、どんな環境に行っても、どんな人たちに出会っても『笑顔と素直と謙虚と感謝』を大切にすること。

もう一つは、問題に向き合ったり目標に向かっていく過程で、最終的に大切なのは『自分を変えるのは自分』だということです。

この二つの言葉は、今の私にとって大切な軸になっています。

わたしは現在、未来の当たり前を作る会社とパートナーを組み、挑戦する仲間たちと向き合いながら楽しく活動をしています。正解のない変化の時代だからこそ、協力し合い一人一人が個々の幸せを生み出せる社会に貢献できるよう、当時気づきにくだった皆さんへの感謝を忘れず、



私はこれからも前に進んでいきます。
ご縁で繋がれることがありましたら、
ぜひ語りましょう。

宮城を耕す



後藤 佳彦

(平 29 年
岩高卒)

岩ヶ崎高校を卒業してから早いもので十年近くが経ち、気が付いたら自分もまもなく三十代。月日の過ぎる速度に驚きを隠せませんが、今回、同郷鷺沢出身の蘇武同窓会会長、菅原副会長から貴重な機会を頂戴しましたので、近況を報告させていただきます。

私は大学で農業経営学を専攻した後、宮城県庁に農業の技術職として入庁しました。現場で水稻や麦・大豆の技術指導に携わった後、現在は「みやぎ米」の生産振興を担当しています。幼少期から田植えや稲刈りを手伝い、みやぎ米を食べて育った私にとって、農業に関わる仕事はまさに天職であり、日々やりがいを感じています。

しかし現在、みやぎ米を取り巻く環境は、各県が独自のブランド米でしのぎを削る産地間競争の真っ只中にあります。この「選ばれるための

戦い」は、定員割れという課題に直面する母校にも通じるものです。これからの時代、お米も学校も、スペックを超えた唯一無二の個性を磨き、いかに価値を伝えていくかが勝ち抜く鍵になると思います。

私個人としては、仕事の傍ら、地域の伝統芸能である「鷺沢八ツ鹿踊り」の活動にも参加しています。保存会の活動を通じて地域文化の重みを肌で感じるとともに、今でも定期的に集まる陸上部の友人たちとの時間はリフレッシュのひとつとなっています。共に汗を流した仲間や郷土の伝統は、私を支える大きな財産です。

岩高がこの逆境を跳ね返し、個性あふれる学校として輝き続けることを願っています。私も一卒業生として、また農業の現場から、愛する故郷と母校の発展に貢献していく決意です。最後になりますが、同窓会の益々のご発展と、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



在校生 活動の様子



生徒会長

安藤 煌峰

岩ヶ崎高校では新たな取り組みや様々な活動をしている姿が見られています。

新たな取り組みとしては、マスコットキャラクターの制作が一番大きいと言えるでしょう。もともと岩高を広めたい。たくさんの人に興味をもってもらいたいという先輩方の思いからできた二つのキャラクターである「いわはなちゃん」と「まなぶくん」は岩高に新たな風を吹かせていると思います。私たちにとっても、今後の楽しみの一つです。

また、在校生の姿を見ると、自分の目標や頑張りたいことに一生懸命に取り組んでいる姿が見られます。勉強であつたり、部活であつたりと

一人一人自分の決めたことに真っ直ぐに進む姿は岩高生らしさで溢れていると感じられ、数年後の成長した姿が持ち遠しいなと思っています。

しかし、この岩高での活動や生徒の成長は、地域の方のおかげでもあります。総合的な探求の時間では、地域コーディネーターさんの協力で地域の方々と連携することができ、探求活動をより深く行うことができます。さらに文化祭ではOBである二階堂さんのヒーローショーや地域コーディネーターの星さんのキッチンカーなど様々な協力があり、より一層盛り上がることができました。これからもこの貴重な関係を続けていただけると嬉しいと思っています。

この歴史ある岩ヶ崎高校はたくさんの方のおかげで新しい挑戦ができています。これからも岩高らしい新たな一歩を踏み出せるよう岩高生全員で頑張っていきたいと思っています。応援のほどよろしくお願いします。



ヒーローと記念写真



吹奏楽部と軽音楽部の合同演奏



夜市でのレモネードスタンド



岩高祭での 3 年生

野球部の活動



硬式野球部部长

菅原 礼慈

自分は部員一人という極めて少ない人数ですが日々顧問の先生方の厚いサポートがあるため充実した活動をする事ができています。

現在はこれからある大会に向けて平日は顧問の先生方と共に練習をして休日は連合を組んでいる黒川高校、古川黎明高校、中新田高校、迫桜高校の五校連合チームで練習試合をしたり合同練習をし、チーム内での連携を強化できるように務めています。平日は少しでも自分の技量を高められるようにするためになぜミスをしたのか、そして次に同じような場合が来た時にもう一度ミスをしないようにするためにどうすればよいかを考えたりしながら、少ない時間の中でも効率良く自分のための練習をすることができるようになっています。

自分は昨年から野球部での活動をしているのでまだまだ未熟な部分もありますが、これから控えている大

会では試合を楽しみつつも自分の役割をしつかりと果たし、チームが勝ち続けるために少しでも貢献できるように全力で頑張りたいと思います。人数も少なく連合チームでの出場とはなりますが、この環境であるからこそ自分を成長させることができているとも感じています。各校の先生方、それから日頃から支援して下さっている方々のおかげで野球ができていくということを忘れないようにし、またこれからも楽しくチームでプレーできるよう怪我にも気をつけながら活動したいと思います。今後も感謝の気持ちを忘れず謙虚さをもってプレーしたいと思います。



男バスの活動について



男子バスケットボール部部长

鈴木 絢翔

バスケットボール部は、三年生一人で活動しています。普段は総体に向けて一日一日を大切にしながら集中して練習に取り組んでいます。

大会や練習試合には、築館高校や登米総合産業高校、一迫商業高校と合同で出場しています。合同チームでも、自分のプレースタイルで戦うことができています。合同練習もありますが、普段の部活は一人です。しかし、ここまで意欲的になれたのは、顧問の先生方や友人、そして環境です。顧問の先生とマンツーマンで指導を受けているので、自分のスキルを向上させることができます。それと、体育館を広く使うことができることも背景にあります。

今年の総体は、大崎地区と戦います。悔いのないプレーをしてきたいと思っていますし、高校バスケットを思う存分楽しんできたいと思っています。私は、バスケットを楽しむという目標

で取り組んできました。引退する最後の最後まで貫いていきたいと思っています。

人数も少なく、合同チームで活動できていることが当たり前ではないことを思いしめていきたいと思っています。指導してくださっている先生方、チームメイトに感謝して試合に臨みたいと思います。



同窓会入会式

同窓会事務局 高橋 基

令和 8 年 2 月 27 日、同窓会入会式が本校視聴覚室を会場に開催されました。蘇武会長はじめ副会長 2 名、東京支部から長沼支部長にご参加いただき、卒業生 21 名を本同窓会へ迎え入れることができました。その後、新入会員を代表して阿部真奈さんが宣誓を述べ、4 名の学年幹事への委嘱状交付も行われました。また、卒業記念品として同窓会より卒業証書ホルダーが卒業生全員に贈られました。卒業生の新天地での更なる活躍を期待しております。



『岩ヶ崎高校HP』



同窓会協力金振込方法について

同窓会への協力金お振込については、岩ヶ崎高等学校 HP 内「岩高同窓会」のページにて詳しくご案内差し上げております。QR コードを読み込んでご確認ください。

インターネットバンキングを利用してお振込の場合は、下記口座までお願いします。

(なお可能な限り、お振込依頼人の最後に卒業年をご記入ください)

■ゆうちょ銀行 ■二二九支店

■当座預金 ■ 0061387 (口座番号)

■宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会 (名称) ※必ず振込先をご確認ください。

■一口 3,000 円

『協力金振込方法』



いわはなちゃん

みなぶくん

昨年度誕生した、岩ヶ崎高校の
オリジナルキャラクター

同窓会総会のお知らせ

令和八年度同窓会総会が次の日程で開催されます。

日時 令和八年八月一日(土)
午後三時より

会場 ベルディ栗駒

会費 三千元

◎問い合わせは、岩ヶ崎高校同窓会事務局へ
電話

0228-45-2266

進路状況

進路指導部長

今野 志麻

進路状況は、下記のとおりです。卒業生は、進路達成に向けて日々の学習に粘り強く取り組み、最後まで挑戦を諦めない姿勢を貫きました。進路選択においては、県外特に関東圏を希望する生徒が多く、それぞれの目標に向けて努力を重ねました。また、互いに励まし合いながら一丸となって受験を乗り切るなど、仲間と支え合う力も大きな成長として挙げられます。その結果、国公立大学においては、4名の合格者、私立大学においては多数の合格者を出すことができました。また、公務員・民間就職ともに100%の合格率となりました。

本校の探究活動では、地域連携や国際理解に重点を置き、多様な視点から課題に向き合う力を育んできました。これらの経験から得た気づきや学びを、各自が志望する進路の実現へとつなげることができました。ありがとうございました。

今年度も、地域の皆様、同窓生の皆様とともに生徒達の挑戦を支えていきたいと考えております。同窓会員の皆様の一層の御支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和7年度卒業生進路状況(令和8年3月31日現在)

国公立大学

大学	学部	学科・専攻	合格者数
岩手大学	理工	材料科学	1
茨城大学	教育	養護教諭養成課程	1
	人文社会	法律経済	1
福知山公立大学	情報	情報	1
合計			4

私立大学

大学	学部	学科・専攻	合格者数
青森大学	ソフトウェア情報		1
岩手医科大学	看護	看護	1
秋田看護大学	看護	看護	2
日本赤十字東北看護大学	看護	看護	2
東北学院大学	経営	経営	1
東北福祉大学	社会福祉	社会福祉	1
	総合福祉	福祉心理	1
宮城学院女子大学	教育	教育・健康教育	1
※1東北公益文科大学	公益学部		1
国際医療福祉大学	保健医療	看護	1
東京工科大学	応用生物	応用生物	1
北里大学	獣医	動物資源	1
専修大学	経済	現代経済	1
産業能率大学	情報マネジメント	現代マネジメント	2
東海大学	政治経済	政治	1
城西大学	経済	経済	2
神奈川大学	経済	経済	1
岡山理科大学	工学	情報工学	1
	情報理工	情報理工	1

※1 令和8年度より公立化

合計(延べ) 23

国公立短期大学

短期大学	学科・専攻	合格者数
山形県立米沢女子短期大学	国語国文学科	1
会津大学短期大学部	幼児教育・福祉	2

合計(延べ)

3

私立短期大学

短期大学	学科・専攻	合格者数
仙台青葉短期大学	栄養	1
東京立正短期大学	現代コミュニケーション	1
聖和学園短期大学	保育	1
合計		3

大学校

短期大学	学科・専攻	合格者数
東北職業能力開発大学校	生産機械技術	1
合計		1

専門学校

学 校 名	学科・専攻	合格者数
仙台ECO動物海洋専門学校	エコ・コミュニケーション ペットリマナー	1
仙台総合医療大学校	理学療法	1
合計		2

公務員

栗原市職員	2
宮城県職員	1
裁判所(事務)	1
国家公務員(一般)	1
合計(延べ)	5

民間就職

株式会社 大平昆布	1
KOD TEC株式会社	1

合計(延べ)

2

卒業生

21名

令和7年度 会計決算書報告 令和8年3月31日現在

○ 収入合計	1,631,365 円
○ 支出合計	944,812 円
○ 差引残高	686,553 円 (次年度へ繰越)

1. 収入の部

項 目	決 算 額	摘 要
1 入 会 金	75,600	3,600 円 × 21 名
2 協 力 金	778,000	250 名
3 前年度繰越金	698,788	
4 雑 収 入	78,977	預金利子・総会戻入
合 計	1,631,365	

2. 支出の部

項 目	決 算 額	摘 要
1 卒業記念品	34,650	卒業証書ホルダー
2 支部助成費	100,586	東京支部、仙台支部へ
3 旅 費	100,776	東京(3名)、仙台(3名)
4 本部総会費	60,049	総会補助
5 会報印刷費	172,920	2,400 部
6 事 務 費	337,163	
本部事務費	12,370	各種郵送代ほか
振込手数料	63,087	
会報送付委託料	261,706	サラトへ
7 役員会費	6,888	会議用お茶等
8 慶 弔 費	780	弔慰レタックス
9 積 立 金	100,000	
10 雑 費	30,000	会長・校長ご祝儀ほか
合 計	944,812	

卒業年度別協力金の協力者内訳

S20	1人	S48	8人	H13	2人
S21	0人	S49	6人	H14	2人
S22	0人	S50	4人	H15	1人
S23	0人	S51	3人	H16	1人
S24	0人	S52	4人	H17	0人
S25	0人	S53	5人	H18	1人
S26	2人	S54	9人	H19	0人
S27	4人	S55	10人	H20	2人
S28	0人	S56	5人	H21	2人
S29	4人	S57	0人	H22	1人
S30	5人	S58	1人	H23	0人
S31	3人	S59	1人	H24	0人
S32	1人	S60	2人	H25	0人
S33	4人	S61	2人	H26	3人
S34	4人	S62	1人	H27	1人
S35	7人	S63	0人	H28	0人
S36	4人	H01	2人	H29	1人
S37	16人	H02	1人	H30	1人
S38	7人	H03	0人	H31	1人
S39	2人	H04	1人	R02	2人
S40	8人	H05	2人	R03	1人
S41	10人	H06	4人	R04	1人
S42	5人	H07	1人	R05	1人
S43	9人	H08	3人	R06	1人
S44	3人	H09	0人	R07	0人
S45	11人	H10	0人	現職員	0人
S46	5人	H11	2人	旧職員	21人
S47	6人	H12	2人	鶯 工	4人

(一人3,000円～10,000円)

合計 250 人

協力金 778,000 円 - 振込手数料 62,922 円 = 合計 715,078 円

お願い 同窓会の運営資金が逼迫しています。円滑な運営を図るためにも、皆様からの協力金をお願いします。

一口金額の変更ににもかかわらず
本年も大勢の皆様から多大なご支
援を賜りました。厚くお礼申し上
げます。

さて、ご協力いただいた同窓会
には他では得難い魅力が沢山あり
ます。

① 岩高で青春時代を共に謳歌し
た人たちと楽しみを共有。

利害関係のない学生時代に同じ
空間を共有してきた同窓生は何十
年たっても昔の感覚のまま付き合
うことができる貴重な存在です。

② 同窓会では人脈充実のきっかけ。
総会等で旧交を温め、人的ネッ
トワークを再構築。予想もしない
情報や機会が得られるチャンスが
広がります。等々、同窓会には共
に力を合わせて生きる光がありま
す。

今後同窓会活動をより一層積
極的に行っていきますので、お知
り合いへの勧誘や重口のご協力を
ぜひともお願い申し上げます。

魅力がいっぱい 同窓会、
ご協力に感謝申し上げます

同窓会副会長
菅原 浩紀
(昭54年岩高卒)



この度、前編集委員長の後任とし
て岩高同窓会会報編集委員長とい
う大役を担当することになりました。
もとより微力ではありますが、皆
様に親しまれる会報作りに取り組
みたいと思います。前委員長同様
皆様のご支援ご協力をお願いいた
します。

さて、令和8年度にあたり、編集
委員の顔ぶれも一部刷新されました
ので、改めて紹介させていただきます。

蘇武徳行 (S47) 高橋勝男 (S51)
菅原浩紀 (S54) 石渡健一 (S59)
菅野厚子 (H4) 阿部豊喜 (H5)
菅原英史 (H6) 三浦大樹 (H11)
最上良元 (H20) 岡崎晃幸 (H22)
菅原茂樹 (S53)

以上のメンバーです。今後ともよ
ろしくお願いいたします。

最後に栗原市長はじめ寄稿依頼に
快諾していただきました先生方、会
員各位に深く感謝申し上げます、編集後
記といたします。

編集後記

編集委員長
菅原 茂樹
(昭53年岩高卒)

